

2026年度名古屋大学大学院生命農学研究科博士前期課程入学試験

受験 専門科目名	応用数学	この科目について (2)枚のうち(1)枚目
-------------	------	------------------------------

[問題 1]

行列 M について、問い(1)～(6)に答えよ。

$$M = \begin{bmatrix} 4 & 2 & 1 \\ 2 & 3 & 2 \\ 1 & 2 & 4 \end{bmatrix}$$

- (1) 行列 M の逆行列を求めよ。
- (2) 行列 M の固有値を、絶対値の小さいものから順に λ_1 、 λ_2 、 λ_3 とする。 λ_1 、 λ_2 、 λ_3 の値を求めよ。
- (3) λ_1 、 λ_2 、 λ_3 のそれぞれに属する固有ベクトル v_1 、 v_2 、 v_3 を求めよ。
- (4) ベクトル p_1 、 p_2 、 p_3 を

$$p_1 = \frac{v_1}{|v_1|}, p_2 = \frac{v_2}{|v_2|}, p_3 = \frac{v_3}{|v_3|}$$

によって定義すると、ベクトル p_1 、 p_2 、 p_3 は 3 次元ユークリッド空間の正規直交基底をなすことを示せ。

- (5) ベクトル p_1 、 p_2 、 p_3 が第 1、第 2、第 3 列である行列を P と定義する。さらに行列 Λ を

$$\Lambda = \begin{bmatrix} \lambda_1 & 0 & 0 \\ 0 & \lambda_2 & 0 \\ 0 & 0 & \lambda_3 \end{bmatrix}$$

と定義する。このとき $MP = P\Lambda$ が成り立つことを示せ。

- (6) M^n を行列 P および行列 Λ を用いて表せ。ただし n は正の整数とする。

2026年度名古屋大学大学院生命農学研究科博士前期課程入学試験

受験 専門科目名	応用数学	この科目について (2)枚のうち(2)枚目
-------------	------	------------------------------

[問題2]

ある土壌の体積含水率 $w(t)$ の時間変化は、次の微分方程式で近似できるものとする。

$$\frac{d^2w}{dt^2} + 3\frac{dw}{dt} + 2w = R$$

ここで

$R > 0$: 単位時間あたりの一定の灌水量とする。

以下の問い(1)~(3)に答えよ。

- (1) ラプラス変換を用いずに、上の微分方程式の一般解を求めよ。
- (2) ラプラス変換を用いて、初期条件

$$w(0) = 0, \quad \frac{dw}{dt}(0) = 0$$

を満たす $w(t)$ を求めよ。

- (3) $t \rightarrow \infty$ のときの $w(t)$ の極限值を求め、その物理的意味を簡潔に説明せよ。

ラプラス変換表

$f(t) = L^{-1}[F(s)]$	$F(s) = L[f(t)]$	$f(t) = L^{-1}[F(s)]$	$F(s) = L[f(t)]$
1	$\frac{1}{s}$	te^{at}	$\frac{1}{(s-a)^2}$
t	$\frac{1}{s^2}$	$\cos \omega t$	$\frac{s}{s^2 + \omega^2}$
e^{at}	$\frac{1}{s-a}$	$\sin \omega t$	$\frac{\omega}{s^2 + \omega^2}$
$\frac{df(t)}{dt}$	$sF(s) - f(0)$	$e^{at} \cos \omega t$	$\frac{s-a}{(s-a)^2 + \omega^2}$
$\frac{d^2f(t)}{dt^2}$	$s^2F(s) - sf(0) - \left. \frac{df(t)}{dt} \right _{t=0}$	$e^{at} \sin \omega t$	$\frac{\omega}{(s-a)^2 + \omega^2}$

2026年度名古屋大学大学院生命農学研究科博士前期課程入学試験
解答例及び出題意図

専門科目名	応用数学
-------	------

[問題 1]

[出題意図] 線形代数学分野における行列概念の理解を問う。

解答例：

(1)

$$\mathbf{M}^{-1} = \frac{1}{21} \begin{bmatrix} 8 & -6 & 1 \\ -6 & 15 & -6 \\ 1 & -6 & 8 \end{bmatrix}$$

(2)

$$\lambda_1 = 1, \lambda_2 = 3, \lambda_3 = 7$$

(3)

$$\mathbf{v}_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ -2 \\ 1 \end{pmatrix}, \mathbf{v}_2 = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ -1 \end{pmatrix}, \mathbf{v}_3 = \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}$$

(4)

$$\mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2, \mathbf{v}_3 \text{ をそれぞれ規格化すれば、 } \mathbf{p}_1 = \frac{1}{\sqrt{6}} \begin{pmatrix} 1 \\ -2 \\ 1 \end{pmatrix}, \mathbf{p}_2 = \frac{1}{\sqrt{2}} \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ -1 \end{pmatrix}, \mathbf{p}_3 = \frac{1}{\sqrt{3}} \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}$$

であるが、どれもが大きさ1でありかつ $\mathbf{p}_1 \cdot \mathbf{p}_2 = \mathbf{p}_2 \cdot \mathbf{p}_3 = \mathbf{p}_3 \cdot \mathbf{p}_1 = 0$ を満たすから。

(5)

$\mathbf{M}\mathbf{p}_1 = \lambda_1\mathbf{p}_1$ 、 $\mathbf{M}\mathbf{p}_2 = \lambda_2\mathbf{p}_2$ 、 $\mathbf{M}\mathbf{p}_3 = \lambda_3\mathbf{p}_3$ を

$$\mathbf{M} \begin{bmatrix} 0 & 0 \\ \mathbf{p}_1 & 0 \\ 0 & 0 \end{bmatrix} = \lambda_1 \begin{bmatrix} 0 & 0 \\ \mathbf{p}_1 & 0 \\ 0 & 0 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{M} \begin{bmatrix} 0 & 0 \\ 0 & \mathbf{p}_2 \\ 0 & 0 \end{bmatrix} = \lambda_2 \begin{bmatrix} 0 & 0 \\ 0 & \mathbf{p}_2 \\ 0 & 0 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{M} \begin{bmatrix} 0 & 0 \\ 0 & 0 & \mathbf{p}_3 \\ 0 & 0 & 0 \end{bmatrix} = \lambda_3 \begin{bmatrix} 0 & 0 \\ 0 & 0 & \mathbf{p}_3 \\ 0 & 0 & 0 \end{bmatrix} \text{ と変形し、}$$

辺々を足すことによって $\mathbf{M}[\mathbf{p}_1 \ \mathbf{p}_2 \ \mathbf{p}_3] = [\lambda_1\mathbf{p}_1 \ \lambda_2\mathbf{p}_2 \ \lambda_3\mathbf{p}_3] = [\mathbf{p}_1 \ \mathbf{p}_2 \ \mathbf{p}_3] \begin{bmatrix} \lambda_1 & 0 & 0 \\ 0 & \lambda_2 & 0 \\ 0 & 0 & \lambda_3 \end{bmatrix}$ を得る。

したがって上式は $\mathbf{MP} = \mathbf{P}\mathbf{\Lambda}$ となる。

(6)

$$\mathbf{M}^n = \mathbf{P}\mathbf{\Lambda}^n\mathbf{P}^{-1}$$

[問題 2]

[出題意図]

微分方程式に関する基礎知識を問う。

解答例:

(1) $w(t) = C_1 e^{-t} + C_2 e^{-2t} + \frac{R}{2}$ (ただし C_1, C_2 は積分定数とする)

(2) $w(t) = R\left(\frac{1}{2} - e^{-t} + \frac{1}{2}e^{-2t}\right)$

(3) 極限值は $w = \frac{R}{2}$ となる。これは十分時間が経つと、外部からの一定の供給量 R と損失を表す項 $2w$ が釣り合い、定常状態となっていることを示す。